

BOOK Review

こんなときオスラー 『平静の心』を求めて



評者 鍋島 茂樹 福岡大学教授/福岡大学病院総合診療部診療部長

ウィリアム・オスラーは1849年に英国領カナダに生まれ、米国に活躍の舞台を移し、1919年に英国で没した医学界の巨人である。青年時代より病理学、生理学、内科学の分野で活躍し、血小板の機能、マラリアの病型分類、オスラー結節やオスラー病をはじめとする膨大な数の業績を残している。もう一つの彼の偉大な業績は、現代に通じる医学教育の基礎を作ったことである。彼は、講義棟から学生を連れ出し、実臨床の場で「生身の患者」を通じて学生を教え続けた。

オスラーは研究にひたすら没頭する冷徹な学者ではなく、多くの英雄が持つ徳性を豊かに持っていた。すなわち、快活さ・実行力・ユーモア・リーダーシップ・溢れる愛情といった徳である。当時も、そして現在においてもその人格は多くの人を魅了してやまず、今もって全世界に「オスリアン」と呼ばれる信奉者を生み出し続けている。

この本は、日本のオスリアン3人が分担して書き上げた本である。徳田安春氏、山中克郎氏はドクター Gと

しても知られるベテランの総合診療医、また平島修氏は、「身体診察の達人」として知る人ぞ知る若き総合診療医である。雑誌『総合診療』に2年間にわたって連載された企画だ。オスラーには『平静の心—オスラー博士講演集 新訂増補版』（医学書院、2003）という有名な講演集があるが、この本は、それぞれの著者が『平静の心』に出てくるオスラーの金言を取り上げて解説したものである。しかし、ただ解説するだけでなく、さすがドクター Gだけあってエンターテインメントを意識した面白いプレゼンテーションとなっている。それは、「Case」として患者の病状を説明した後で、その答えとなるようなオスラーの言葉を紹介し、著者がそれに解説を加えていく、というユニークな構成である。

この本は全ての年代の人に薦めたい。若い人は今後の長き人生の助言を得るために、そしてベテランの先生は医の原点に立ち返るために。オスラー博士の言葉は、全ての医療人の疲れた心に豊かな癒やしを与えてくれるだろう。

平島 修・徳田 安春・山中 克郎 著

A5判/200頁/2019年/定価(本体2,400円+税)/ISBN978-4-260-03692-4/医学書院刊